



今年1月2日に四日市港に外航クルーズ客船「コスタネオロマンチカー」が初寄港した。四日市港に外国のクルーズ客船が寄港するのは初めてであり、船内での歓迎式典には三重県知事、四日市市長、地元選出の衆参両院議員が参加し、四日市だけでなく三重県全域に観光客が来ることへの期待が示された。

2016年の日本への外航クルーズ客船の寄港数は1443回、インバウンド

外航クルーズ客船の 東海地方への寄港

の寄港が圧倒的に多く、名古屋港などの東海地方への寄港は数回程度であった。18年11月から外国船社のクルーズ客船の「ダイヤモンド・プリンセス」による名古屋港発着の定期クルーズが行われる。「ダイヤモンド・プリンセス」は全長約290m、総トン数約11・5万ト、乗客約2700名、乗員約1100名が乗船する巨大なクルーズ客船であり、大浴場の設置など日本向けに改装されて14年から運航している。日本船社のクルーズ客船は「飛鳥II」に「ぼん丸」「ぼしふ」と「びいなす」の3隻があるが、合計しても乗客約

の寄港が圧倒的に多く、名古屋港などの東海地方への寄港は数回程度であった。18年11月から外国船社のクルーズ客船の「ダイヤモンド・プリンセス」による名古屋港発着の定期クルーズが行われる。「ダイヤモンド・プリンセス」は全長約290m、総トン数約11・5万ト、乗客約2700名、乗員約1100名が乗船する巨大なクルーズ客船であり、大浴場の設置など日本向けに改装されて14年から運航している。日本船社のクルーズ客船は「飛鳥II」に「ぼん丸」「ぼしふ」と「びいなす」の3隻があるが、合計しても乗客約

浜という6日間のクルーズが5回予定されており、冒頭で述べた四日市港にも大型クルーズ客船が定期的に寄港するようになる。外国船社のクルーズ客船は海外に寄港しなければならぬという力ボタージュ規制によつて隣国の韓国や台湾へも寄港するが、それ以外は日本国内を巡り、ほぼ内航クルーズといえる。

外航クルーズ客船の乗客は外国人が多かったが、集客がしやすい横浜、名古屋、大阪を繰り返し周ることで日本人の乗客を8割程度とする予定である。外国船社のクルーズ客船は1泊当たり1万円程度と日本船社の半額程度である。これまでは便数が少ないので日程が合わないということも多かったが、「内航クルーズ化」により便数が増えれば乗船の機会は増加する。乗客が増えればさらに便数を増やすことができ、さらに乗船しやすくなる。

「内航クルーズ化」で 期待される市場拡大

は約200万人であり、17年はさらに増加している。これまででは地理的な事情から博多港（16年第1位328回）や長崎港（同第2位197回）、那覇港（同第3位193回）など九州へ



梶山女学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。

2000名であり、「ダイヤモンド・プリンセス」1隻分にも満たない。そのような巨大なクルーズ客船の定期クルーズが名古屋〜大阪〜那覇〜基隆（台北）〜横浜〜名古屋を9日間で巡り、11月に4回、19年2〜3月に5回が予定されている（うち各1回は名古屋発横浜着）。名古屋発着となつてはいるが、横浜、大阪にも繰り返し寄港することですべてを起点とした定期クルーズになつている。これとは別に横浜港発着の定期クルーズで横浜〜釜山（韓国）〜四日市〜横

東京・横浜と神戸・大阪の間で1泊できる場所として、また、集客地として東海地方への寄港は増加する。19年には蒲郡港に「ダイヤモンド・プリンセス」が寄港するように、これまでに入港したことのない港への寄港が増えていく。中部国際空港にクルーズ客船が寄港できるように埠頭を整備することも検討されており、実現すればまさに「フライアンドクルーズ」となり、さらなる市場拡大につながる。